

日中漢語の交流

高野 繁男

(1) はじめに

日本語の海外流出について、たとえば「英語辞典」「仏語辞典」の中タイプのもので、日本語を語源としている語が600語前後ある。ただ、これらの語の内容を見ると、能・歌舞伎・浮世絵・相撲・柔道といった、日本独自の芸能・スポーツの類で、学問・科学の用語の登録は、まったく見られない。

ところが、これが中国、韓国といったアジアの国になると事情が一変する。とくに、近代の英語を中心とする西洋文化の移入に伴って、日本で造られた学術用語の多くが、アジアの漢字圏に輸出され使われている。ここでは、中国との漢語の交流についてふれてみたい。

(2) 日中の同形語

上述のような事情から、現代の中国語には日本語と同形の語彙（同じ漢字を用いている語）が多く見られ、近代語の成立に日中の間に多くの共通点がみられる。その最大の理由は、日中が同じく漢字を使用していることに他ならないが、近代の訳語の造成でも、この漢字の使用が多くの面で有効に機能した。

日本語にしる中国語にしる、新しい語を造成する際の要素（語基＝造語要素）になるのは漢字である。日本における近代訳語の主流は、いわゆる和製漢語であり、両国の間でこれらの訳語の交流が行われた。ことに、学術用語においてはそのことが顕著である。

筆者の手元に、日中の高校教科書の語彙表がある。これらを資料に両者の語彙を比較してみた。

日本『高校教科書の語彙調査』1983

中国『現代漢語頻率詞典』1986

ここでは、これらの語彙表のうち、使用度の高い前3,000語を双方の表から取り、その範囲内に含まれている日中の同形語をみる。その結果、日本語1,237語、中国語996語の2,233語を得た。

(3) 日中同形語の典拠

これらの語を分析する項目は、いくつか考えら

れるが、ここではそれぞれの語が、日本で造られたものか、中国で造られたものかの典拠について考えてみたい。

上述の2,233語の典拠をみると次のようになる。

中国の古籍を典拠とする語	68.8%
日本の古籍を典拠とする語	3.4%
日本で近代に造られた語	23.8%
典拠の不明な語	4.0%

全体の3分の2の語が、四書五経といった中国古籍を典拠としている。奈良時代以来の、大陸からもたらされた仏教文化、儒教文化を中心とするさまざまな情報の移入と伝達に伴って、日本に入ってきた語である。日本で、古い時代に造られた語もみかけるが微々たるものである。その点、注目されるのは、日本で近代になって造られた語が23.8%あることである。

以下で、具体的な語にそって議論してみたいが、その前に、どんな分野の語がどのような分布をもっているかをみるために、簡単な意味分類の項目を立て、二桁の数記号で示すことにする。

最初の記号

- 1 体の類（名詞の仲間）
- 2 用の類（動詞の仲間）
- 3 相の類（形容詞の仲間）
- 4 その他の仲間

2番目の記号

- 1 抽象的關係
- 2 人間活動の主体
- 3 人間活動の精神及び行為
- 4 生産物及び用具
- 5 自然物及び自然現象

したがって、たとえば〈1.2〉は〈名詞・人間活動の主体〉ということになり、人間、男女、家族、社会、都市などが、この類に入る。よく使われる語を中心に挙げる。

中国古籍

安全31	意志13	意味13	宇宙15	学術13
家庭12	感情13	気象15	犠牲13	季節11

空間11 経営13 警察12 計算13 貢献13
 交通13 行動13 呼吸15 根本11 自我13
 試験13 時刻11 思索13 支持13 自由13
 消化15 小説13 条約13 処理13 人口11
 進歩11 真理11 制定13 地図13 能力11
 反映15 物理13 分析13 平均11 理解13

日本近代

圧力11 温度11 価値11 感覚13 観測13
 気温11 企業13 客観13 吸収11 共産13
 系統11 結合11 健康15 原子15 原則13
 効果11 克服13 困難15 細胞15 質量11
 集団11 需要13 商品14 接触11 繊維15
 調整11 哲学13 電子15 目的11 理由11

日本古籍

快樂13 獲得13 政権13 相互11 普遍11

概観したところ、中国古籍を典拠とする語で多いのは〈1.3〉〈名詞・人間活動の精神及び行為〉の分野の語である。一方、日本語では〈1.1〉〈名詞・抽象的關係〉〈1.3〉の分野の語が目立つ。このことは、ここに挙げた例が特別なのではなく、資料全体でもいえることである。

(4) 対照的な典拠

下記の表が、両者の典拠と意味分野の分布である。〈1.5〉は〈名詞・自然及び自然現象〉の語である。

	〈11〉	〈13〉	〈15〉
中国古籍	32.9	53.9	8.0
日本近代	52.2	32.6	10.9

このように、意味の分布を比較してみると、中国古籍を典拠とする語と日本の近代に造られた語とは対照的で〈1.1〉と〈1.3〉の比率が、ちょうど反対になっている。

まず、中国古籍を典拠とする語の特色を例で示した語で確認してみよう。

意志 学術 感情 自我 思索 自由
 経営 計算 条約 処理 制定 分布

いずれも〈1.3〉の語であり、上段は〈人間活動の精神〉、下段は〈人間活動の行為〉を内容としている。どの語も、現代も日中でよく使われている。いずれも抽象度の高い近代の思索、行動を意味する語である。

ただ、これらの語の中には、近代になって新しく意味の付加された語も少なくない。

「意志」は①〈何かをしようとする考え〉の意味では日中語ともに古くから見える。しかし、今日の哲学でいう②〈多くの動機、目標、手段から一つを選択し、その現実を欲求する〉用法は近代になってからのものである。

「学術」①〈学問と芸術〉の意味では、古くから日中両国で使われているが、今日では「学術用語」「学術書」というように、もっぱら「学問」の意味に用いられる。近代の初め〈science〉の訳語として「科学」が登場するまで「学問」の意味で使われた。

「自我」〈自分・われ〉の意味で《宋史》に、日本では《日葡辞書》(1603)に見える。しかし、哲学用語、精神分析学の近代科学の術語としての用法は新しい。

「自由」〈思うまま〉の意味で《後漢書》《続日本紀》(797)に見える。ただし、思想の自由、言論の自由、信仰の自由といった精神的、政治的自由の意味で使われるのは新しく、英語〈liberty〉(政治的自由)、〈freedom〉(精神的自由)の訳語として近代になって使われるようになった。

一方、日本で近代に造られた語をみると、中国古籍を典拠とする語とは反対に〈1.1〉が多くなっている。

圧力 温度 吸収 系統 質量 目的

科学用語系の語が中心になっている。また、このことは〈1.5〉においても同じことがいえよう。〈1.3〉と共に示しておこう。

健康 原子 困難 細胞 繊維 電子〈15〉
 観測 企業 客観 需要 共産 哲学〈13〉

(5) おわりに

明治期の、日本の近代化は、他に類をみない短期間に行なわれた。理由はいくつかあるが、何といても西洋文化を理解するための訳語が生産してきたことである。それには、日本より一歩先に開国していた中国の訳語を参考にできたこと、漢字という有効な造語要素をもっていたことである。とくに、日本人の漢字の音訓両用の活用は、造語法において漢字の能力を拡大した。漢字圏の、こうしたことばの交流の研究が待たれる。